

鳥さし（祇園町一力の段）

へさすぞえさすは盃初会の客よ 手にはとれども初心顔

へさいてくりよ／＼これ物にかんまえて 先づこれ物にかんまえてちよつとさいてくりようか さいたら子供に羽根やろなひわや小雀や四十雀 瑠璃は見事な錦鳥

へこいつは妙々 奇妙鳥類何んでもござれ ねぶつはそばで禁物と 目当違わぬ稲むらを 狙いの的のためつすがめつ へいでや手並を一ト刺と 一散走りに向うを見て きよろつき眼をあちこちと 鳥刺掉も其儘に 手足延して捕らんとすれば 鳥はどこへか随徳寺 思案途方に立止り

へシタリとてんでではなくれども 突出されても自分もの 是じゃ行かぬと捨鉢に 跡はどうなれひく三味線の へ気も二上りか三下り へ浮いて来た／＼来たさの 酒の酔い心

へ四条五条の夕涼み 芸妓たいこを引連れて へ上から下へ幾度も ゆたかな客の朝帰り カァ／＼／＼

へ鴉鳴きささエ、／＼うまい奴めとなぶりおかめから そこの目白が見つけたらさぞ せきれいであろうのに へ日がらひばりの約束は いつも葎切顔鳥見たさ へ文にもくどう駒鳥の

そのかえす書きかえり事 なぞと口説きで仕かけたら 堪った色ではないかいな へ其時あいつが口癖に 都々逸文句も古めいた へ晩に忍べと云うた故 紺の手拭で顔隠し いつも合図の咳払い ハックサメ 噂されたを評判に 幸いありや有難き

へ実に御ひいきの時を得て 座敷の興も面白き 息せき楽屋へ走り行く